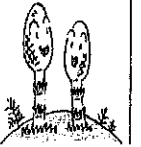


# 上宮津公民館だより

第57号  
平成24年  
3月19日



## いつか来た道

公民館長 智原芳明

降り続く大雪となりました。

公民館におきましても、節分頃をピークにどっさり積もり、困り果てていました。

保育所、小学校、公民館の職員と保育所の送り迎えの車で止める所が無くなる程でした。

ちょうどその時に細見自治連合会長が市役所に掛け合って下さり、ロタリー式の小型除雪機を配備して頂く事が出来ました。

手仕事でやっていたのと違い本当に楽になりおもしろい程の速さできれいに除雪できました。

早速、保育所・小学校や個人と、ほとんど毎日の使用があり、需要に追いつけない状況でした。

「この除雪機は、上宮津には必需品だなあ。」と感じたところでした。

過疎と高齢化の中では、機械を使つての地域の動脈化は欠かすことができない大切な事だと思えました。

折も折、そんな気持ちより一層強く印象を受けたのが、PTAの人達による松縄手の通学路が除雪をして頂けたことです。

ウォーキングを日課としている私が大橋にさしかかった時のことです。

昨日まで白一面だった所が、一筋の道となりアスファルトが現れていました。岩のようになった雪の塊を避けて自動車を気にしながら歩いていたらに比べ、実に歩きやすく、安心して気持ちが良いのです。

これなら児童が登下校する際にも安全で、実に素晴らしい試みであると感心しました。

途中、買い物袋を持った仕事帰りの女性や、同じようにウォーキングする人とも出会いました。「お帰りなさい」「よく降りましたねえ」幅が一メートルぐらいの道なので出合いがしらの会話もはずみました。

「これだ」除雪機が作った道を通して、今まで見過ごしていた大切なものを見つけた気がしました。

「求めている人に」対して「どのよう」に答えていくか「この関係がこれからの上宮津には必要不可欠だと考えを新たにしたいところです。」

地域防災を含め、「できる人ができることをする」というグループワークの支え合いが求められています。地域にとって人材はまさに貴重な資源であります。

才能や特技を個人に眠らせておくことなく進んで必要としている人たちのために発揮していただき、地域の活性化に導いていただきたいと思えます。

光と空気を送り込むことで、閉塞傾向にある地域もきつと新たな活路が見出されるものと信じます。

最後にISD細胞で先端医療の分野で活躍中の山中伸弥京都大学研究所長が毎日新聞「未来への手紙」の中で次のように述べられています。

「助け合いに富むのが日本人の素晴らしさであり、国の力です。それを大事にしていけば、日本は必ず新しい未来を作っていけると思えます。」



支え合う地域社会に戻そう  
地域会議にご協力を

自治連合会会長 細見 節夫

平成二十二年六月以来地域会議で京都府と宮津市の支援を受けて上宮津の地域おこしに取り組んでいます。目に見える形で物事が進まない現実を目の当たりにして力不足を感じているこのころです。

もとより地域おこしが並大抵のことではなく、時代に逆らうような取組みが必要で、現状を変えていくための障壁は想像以上のものと考えています。

地域おこしの要点は、現在と将来にわたり、今の上宮津地区の住民一人ひとりが生涯幸せに生きることであると考えています。

そのためには上宮津の地域社会が生き活きとした元気で活力ある組織体でなければなりません。

そしていつの時代も活力ある組織の源泉は時代を担う若者であり、子供たちが湧き水のように生まれ育つていく仕組みにあると考えています。

一年前に実施した里力再生にかかる住民アンケートの結果におい

て、求める上宮津の将来の姿は、若者や赤ちゃんの声がいつでもどこでもにぎやかに聞こえる地域社会と回答した人がほとんどでした。

東日本大震災から丸一年、世の中は大きく変わろうとしています。

農村の地域社会の移り変わりを振り返ると、農業だけで生活している時代には地域社会が地産地消の循環社会で、農業生産をめぐる地域の課題は日々自分の生活と直結していて、常に村をどうするかみんなが真剣に考え行動しなくては生きていけない世の中の仕組みができていたと思います。

時代が変わり、工業化・産業化が進むと農業から第二次第三次へと労働力のシフトが進み、人々は給料取りになり所得が向上して個人的な努力で自分の生活欲求が満たされてくると、誰にも頼らずに自立していく傾向が加速してきたと思われれます。

一方、村や町も税収が伸び、従来個々、助け合いの中で消化してきたことを行政サービスが

肩代わりをしてきたために、地域社会の連帯意識や支え合いの習慣が薄れていき、結果として自身の家庭生活と働く会社や職場のことを主軸として考え、地域社会が直面する課題は行政や誰かがやってくれるといった個人主義の社会風潮が強まってきたといえます。

こうした近代化した現代と今後の時代を展望したとき、わが国全体で人口は減少し、経済も停滞縮小し、人々の所得は減少、一般の行政サービスは高齢化への対応に追われ縮小せざるを得ない状況へ立ち至ることが容易に想定されます。

こうした中で私達は今後、自身自身の生活のあり方を見直し、エネルギーを含め節約と節約の生活に戻すことを視野に入れるとともに、地域社会と自身との係り合いを強めていくことが時代の要請であると確信します。

長期的視点に立てば食料・エネルギーを始め、現在の何でも直にほしいものが手に入る時代から節約と節約を、本当に必要な最小限のものを充足する選択

の時代に入ることには確実と思われるからです。

若者が農業から去り農地が荒れ放題になっていく現実と将来の食糧自給の時代的な要請が待ち構えている事を考えるとき私たちは今何をしているのかとジレンマに陥ります。

アメリカインディアンの古い諺に「バッファローは子孫からの借り物である。」と言ひ伝えられています。

地域会議が上宮津の地域おこしに取り組んでいる主旨はまさにこのことです。

右肩上がりの時代に失ってきた地域社会のいろいろな仕組みを再構築して、将来の時代に備えていくことが私たちに課せられた責任と考えています。

○コミュニティが深まる地域づくり

○子供と若者が増える地域づくり

○集落機能が維持していける地域づくり

○農林業や観光を中心に自然の恵が経済の発展につながっていく地域づくり

○生涯を通じて誰もが安全安心に暮らせる地域づくり

これら地域づくりのテーマはすべて今までの時代の流れからすれば大変な課題ですが、今は将来に向けての地域住民の心合わせをして時代の流れに身を任せるのではなく、将来を展望して今やれることに挑戦していく時だと考えます。

一気に物事が良くなることはありませんが今は芽だしのときと考えています。

本年からは高齢者の見守り活動を積極的に推進するとともに農業の衰退をいかに防ぐか真剣な地域の議論を展開することとしています。

ものづくりとして竹の本でわざびの試験研究に入ります。

さらに今年、今後の十年を展望し上宮津地域が目指す地域社会のビジョンを策定する作業に着手します。

里力再生事業の取り組みにおける行政の支援も最終年度に入り、より具体的な行動のときを迎えています。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願いする次第です。

## 「い」には、上宮津

### 21 夢会議です

代表の粉川宗久です。八尋代表の後任になりました。あつという間に一年になります。

21 夢会議について簡単にご紹介します。

#### 一、その家族構成

「杉山・大江山部会」、「里川・里山・ホタル部会」、「ものづくり部会」、「広報部会」の五つがあります。会員は、興味のある部会に入って活動しています

#### 二、我が家の主な活動

①早春、新緑及び紅葉の折々に「杉山を歩こう会」を行っており、自然を満喫しています。

②「ホタルとカジカ夢酔い祭」は、辛皮地区で六月中旬に行っており、毎年多くの方々に参加していただいています。

③KTR沿線の草刈りを年2回、地元の方々のご協力も頂きながら行っています。

④「上宮津お宝マップ」をまとめました。

⑤「元普甲道を歩こう会」では、古の道を踏みしめて歴史・文化に親しんでいます。

⑥「そばづくり」では、栽培、刈り取り、脱穀、そば打ちを会員で行っています。文化祭のバザーにも出品しており好評です。

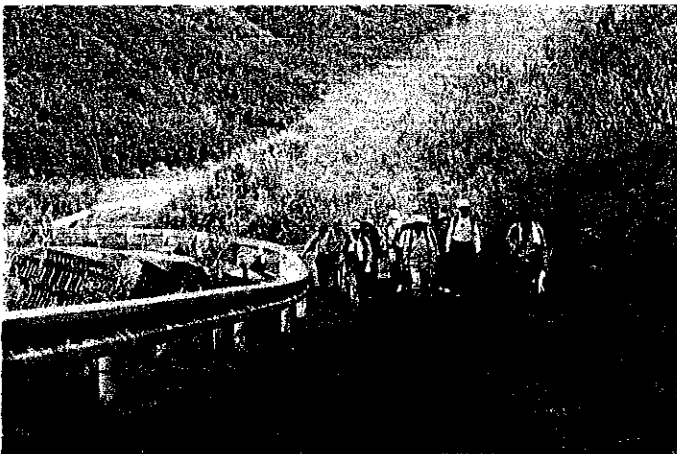
⑦広報「杉山ゆめだより」を年間4回作成しています。毎回、上宮津色あふれる紙面です。

主なものを列挙しました。地区の皆様には、これからもわが家にお立ち寄りください。

#### 三、共通の思いは「ふるさと」と「夢」

ほんものの自然やふるさとの文化・行事に接する中で、皆で生き活きと楽しんでいきます。ふるさと大好き人間の集まりです。

終りになりましたが、私たち21 夢会議は、活動の基地として地区公民館をありがたく利用させていただいています。これからもよろしくお願い致します。



# 上宮津緑の少年団の紹介

育成会 上家 透

上宮津は豊かな森林に恵まれ、山に生きてきました。

この大自然の中で、心身ともにたくましい子供を育てようと平成二年五、六年生六十一名で上宮津緑の少年団が誕生しました。現在は四、六年生二十二名です。

平成二年には宮津市プレ植樹祭に参加し「緑の誓い」をおこないました。

平成三年第四十二回全国植樹祭京都みどりの祭典に参加してきました。

年間を通じた活動として、春、夏は、峠の財産区山「緑の少年団の森」の杉・陰の植栽や雪起こし、下草刈などの体験学習をしたり、大笠展望所での大声大会をします。

秋はふるさとの大山、杉山観察会をして、学校との交信や、植物の名札つけ、大杉の測定をします。また上宮津谷・天橋立などのふるさと学習もします。

「宮津ふるさとの森」植樹祭にも参加し植栽と緑の宣言をしました。

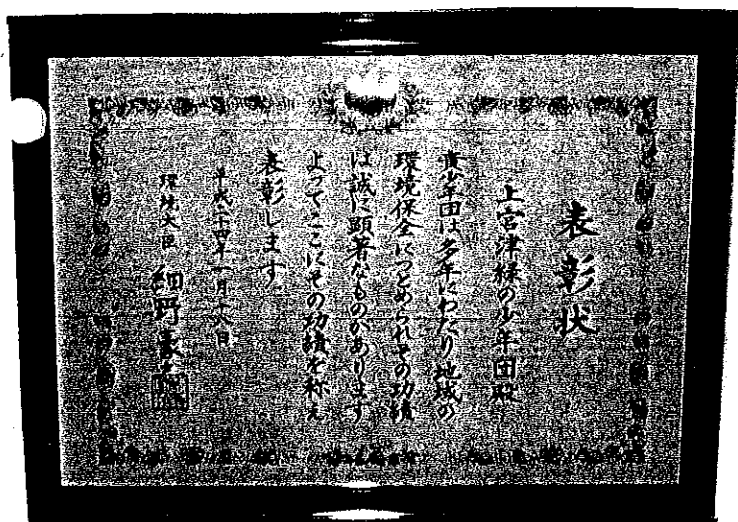
冬はシイタケ菌打ちを行い、収穫したシイタケは給食用として用います。

丸太切りと焼印、緑の学習と発表を行ない、四季を通じて楽しく生き生きと活動してきました。

この度、知事表彰に続き環境大臣表彰を受賞するという栄誉に輝きました。

これはひとえに永年にわたり学校と地域が一体となり、府・市、関係団体のご支援のもとで活動が続けてきた賜であり、皆様と共にお喜びしたいと思います。

今後とも、緑に生きる上宮津の里で次世代を担う子供たちが、緑を育み、健やかに伸びてくれることを願って止みません。



## みんなの「ふるさとの森」を守るちかいの言葉

### みんなの「ふるさとの森」を守るちかいの言葉

私たちの住む上宮津は、豊かな森と美しい自然に  
つまれた「緑」のふるさとです。

森は、海とともに地球上の生き物のくらしをささ  
えてくれるとても大切なものです。

森は生き物が生きていく上で大切な水をたくわ  
え、きれいな空気を作り出します。

森は野生動物やこん虫がくらし、さまざまな木や  
美しい草花が育ちます。

森は大きな役目を果たしてきました。

私たちの祖先は、その森の大きな恵みに感謝しな  
がら、とても大切に守り、育ててきました。

私たちの祖先が大切にしてきたこの森を、この自  
然を、これからも守り、育てていきたいです。

そのために、緑の少年団として、森のすばらしさ  
を学習していきます。

これからも私たちは、「ふるさとの森」に集ま  
り、木を育て、上宮津の美しい自然を未来につな  
げていくことを誓います。



### 元気で現役

## インターバル速歩

高齢になっても、「いつまでも健康な日常生活を送りたい。」これは誰もが願っていることですね。

そこでこのたび宮津市あげて行おうとしているのが、「インターバル速歩」です。

上宮津地域においても最近歩く人を多く見かけるようになりました。健康に対する意識の高さをうかがい知ることができます。

一日一万歩、万歩計を付けて努力中の人もあるかと思いますが、このインターバル速歩は、一回に十分でも十五分でも良いのです。

ですから忙しい人や、一時間も歩き続けることが困難な体に自信のない人にも気軽に始めていただけます。

要領は至って簡単、「早歩き」と「ゆっくり歩き」を体力に応じて数分間ずつ交互に行ってもらうだけです。

朝昼夕と、こま切れに歩いてもらったのを合計すれば、効果は続けて

歩いたのと同じです。

この施策は公民館が窓口となって行っており、上宮津には現在五人のリーダーがいます。

「やってみようかな。」と思われるましたら、テキストなどもありますので気軽に公民館にお尋ね下さい。

「体力は年齢と共に低下をするものだ」と思い込んでいますが、実は歩き方次第で幾つになっても維持できるものなのです。

加齢とともに骨はもろくなり、高齢者は骨折、入院から、寝たきりになることも少なくありません。

さあ、「健康は歩きから」あなたも今から始めてみませんか。



### 「共助」の地域社会に向けて

民生児童委員 赤田 光弘

毎日、必ず新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどといったマスメディアのいずれかで見聞きする「防災問題」や「高齢化問題」。

高齢化についてはご存知のように日本の高齢化率は22%を超えています。「超高齢化時代」に突入しています。諸外国に比べそのスピードは速く、2055年には40%に到達し、中でも75歳以上の後期高齢者は全人口の4分の1を占めると推定されています。

「上宮津」にいたってはすでに、高齢化率36%ですから数値上ではさらに国のスピードより15年程度進んでいることとなります。

その上、「過疎化」の問題は深刻で、今後はその地区で暮らす人のコミュニティの維持が困難となり、人口減少に拍車をかけることにも危惧されます。今までは各地区ごとに小さなコミュニティを形成してきましたが、今後は各自治会の枠を超え、どのサイズでコミュニティを形成し暮らして安心を提供できる「セーフティネ

ット」の仕組みをつくるかではないでしょうか。

自分で出来ることは自分で、一人で出来ないことは地区の仲間、そして上宮津のみんなです。地域の誰もが地域社会の担い手となり、互いに助け合う「共助」の地域社会形成がベースとなり、行政の「公助」、そして「民間組織」「企業」などとの連携で、暮らしを支える「セーフティネット」の構築が上宮津にとって焦点の課題だと思われてなりません。

#### お世話になります

#### 民生児童委員さま

- 小田 赤田光弘氏
- 小田 久古恭子氏
- 喜多 関野揚司氏
- 今福 杉田喜美代氏
- 天神 酒井勝明氏
- 鳥が尾 大塩京子氏

# 上宮津地区連絡所

## 職員になって

奥野 江里

上宮津地区に住んで十年。昨年九月から、上宮津地区連絡所の職員としてお世話になって、半年が経ちます。

まだ右も左もわからない状態ですが、窓口や出先で皆様に声を掛けていただくことが、大変ありがたいなあと感じています。

地区連絡所の職員として、皆様のお役に立てるように、また、可愛がっていただけるように、努力していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

まだ、車でみなをまわるときは連絡所は近いです。午前中は近所を回り、午後はお宅の近くを走ります。

夫が一人、子供が3人います。笑顔がとりえかな



## 今福の滝に

### ログハウスの

### 「東屋」が完成!

福井 愿則

今福の滝の滝壺近くに、このほど間口三メートル、奥行四メートルの、ログハウスの「東屋」が完成しました。

この「東屋」は、京都府地域力再生プロジェクト並びに宮津市まちづくり補助金の支援を受けて建設したもので、宮津地方森林組合が伐採した杉の木を加工して組み立てました。

今福の滝は、近年テレビや新聞報道の影響もあって、山形、島根など遠方からの来訪者を含め、訪れる人が劇的に増えています。が、「東屋」建設の動機は、これら来訪者の感想アンケートのなかに、「雨宿りできる場所がほしい」との声が寄せられたことでした。

雪解けを待つて、三月にベンチや簡易テーブル、バーベキューもできるスペースなども設置して、今福の滝を家族ずれで楽しめる自然豊かな憩いの場にしたいと思ひます。

多くの皆様のご来訪をお待ちしています。

(今福地区・村づくり委員会 福井)



2011.12.15 15:33  
2011.12.15

## 新成人になって

堀 匡希

今年、成人式を迎えて、大人への仲間入りをしました。でもまだ大人になったと言う自覚がありません。

今専門学校で技術を身につけ、その技術を生かせる職場も見つけています。そこで社会の厳しさや辛さを学び立派な仕事人になり、学んだことを地域に生かしたいです。

二十歳になり、今までお世話になってきた上宮津にもっと貢献したいと強く思うようになりました。

私の父は長年消防団で活躍し、地域の安全を守ってきました。私も父のように地域の消防団に入団し、少しでも地域のお役に立ちたいと思っています。

それから今まで以上に地区行事に積極的に参加し、地区の人に顔と名前を覚えてもらい、私が年上の人と年下の人とのパイプ役になって行事がもっと盛り上がり、地域が今まで以上に元気になるようにしたいです。

## 押し花教室を体験して

小仲 真樹

プリザーブドフラワー体験って何？押し花と違うの？興味深々で十一月の公民館行事に参加させていただきました。

一枚の額の台紙に木の皮が貼ってあって、あとは自由に花をおいていくのです。色とりどりの花がたくさんあって、どうおいていくのか。とりあえず適当においてみて、この辺は赤、こっちはピンク！プリザーブドフラワーとは、花を液体処理して、押し花よりは長い間色が褪せないそうです。

そして、十二月には、無理を言ってお押し花の体験をさせていただきました。花の水分を飛ばし乾燥させ、自然に近い色が出るのですが、一年くらいで色が褪せていくのだとか。

十名程度の参加で、同じ課題でもそれぞれ違う作品が出来上がっていくのです。性格が出るっていうのかな。



深みにはまってしまった私は、ついに先生の自宅がある丹波まで押しかけてしまいました。庭にはたくさんのお花、玄関を開けるとあちらこちらに素晴らしい作品がずらり。

もっと作りたい、花に囲まれたい、癒しをもとめ、丹波に通うことになりました。

日頃の忙しさから、ほっと出来る空間を公民館行事を通して、見つけられたことに感謝します。ありがとうございました。

## 公民館の新設備ご紹介

### ペレットストーブ

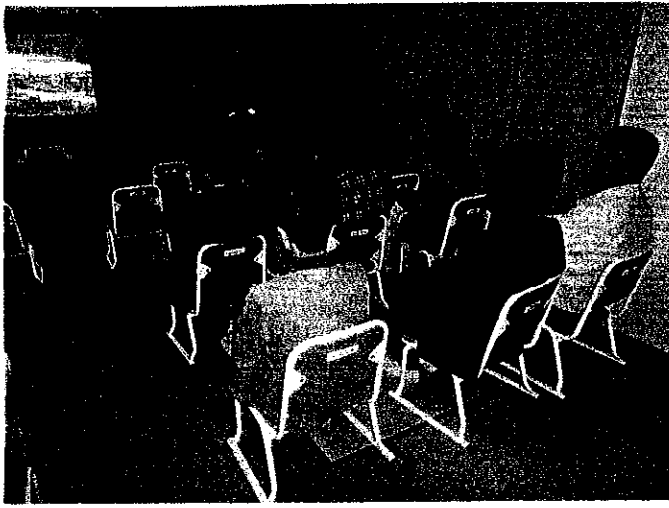
一月下旬に会議室にペレットストーブが設置されました。イタリア製で石油に頼らない再生可能な次世代エネルギーを目指し、木材を粉末化し圧縮した物を燃やします。長時間の会議でも匂いや排気ガスが無く、気持ち良く使っていただけます。



### AED

私たちの身の回りで急に意識不明者や、心肺停止状態に陥った人が出た時の応急処置を施すためのものとして、AED(自動体外式除細器)が公民館の玄関に設置されました。





「東日本大震災の様子と現状」 10/1  
糸井章裕氏 (宮津与謝消防組合)



農業文化祭 11/12, 13  
丸太切りに大人も子供も大興奮



12/10 しめ縄講習会  
講師：直田幸一氏・竹田昌代氏

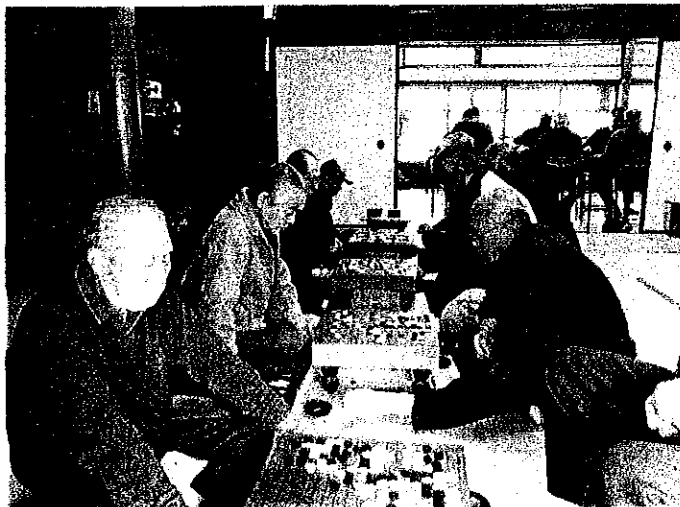


新春お楽しみ会  
メンロ・コマ回し



一月七日新春お楽しみ会  
餅つき

# 後期事業報告



2/11 囲碁大会



3/4 男の料理教室 ぶりしゃぶ  
講師：浜崎和雄氏 岡田英文氏